

○令和7年度 福祉学習実施数

No.	実施日	講座名	担当課	共催団体名	参加人数	講座の成果
1	10月8日	「非常食の抵抗感をなくし、栄養が摂れる防災食を考えよう」【高齢者対象編】	重層的支援推進担当	・【共催】兵庫県立尼崎小田高等学校 フレイル予防×防災探求チーム ・【協力】小田地域課	20人	・高齢者を対象に単なる料理紹介ではなく、自分で自分自身や家族を守る力をつけるための防災啓発事業として実施したところ、参加者から「レシピを知ること、家にある食材で作れる。」や「備蓄が習慣化される。」といった意見が上がり、備蓄の重要性等を伝えることができた。
2	10月19日	「非常食の抵抗感をなくし、栄養が摂れる防災食を考えよう」【親子対象編】	重層的支援推進担当	・【共催】兵庫県立尼崎小田高等学校 フレイル予防×防災探求チーム ・【協力】喜楽苑	50人	・親子を対象にワークショップ形式で災害時は栄養バランスが崩れやすく、水や火を使わずにエネルギーやたんぱく質を摂る工夫や衛生面の注意点などの知識の普及に取り組んだ。参加の親子からは「避難所では食事が十分ではないことが想定される。」や「各家庭で防災食の知識と備えが必要となる。」といった意見が上がり、実際に手を動かして防災食を作ること、 「知っている」だけでなく「できる」状態に近づけることができた。
3	11月9日	「あまおだ減災の日」	重層的支援推進担当	兵庫県立尼崎小田高等学校「あまおだ減災の日」実行委員会	310人	・地域全体の防災力向上として、地域住民が自分の地域の避難所を知ることで災害時の行動を改めて学ぶ機会となった。 ・実際に体験型ブースで学ぶことで「我が事」となり、備えの実践につながった。 ・高校生自身の防災意識と主体性の向上として、自分たちの活動が地域住民にとって役立つ経験により、自己高揚感や主体性の育成につながった。 ・若い世代と地域住民が交流することで、住民にとって刺激となり、地域の連帯の輪が広がった。 ・学校と地域が協力することで、「助け合い・支え合い」という安心感が生まれた。
4	10月27日	「介護予防に使えるアロマセラピー」	重層的支援推進担当	兵庫県立武庫荘総合高等学校 3年次「総合的な探究の時間」服飾社会学ゼミチーム	15人	・参加した高齢者からは、“香り”や“ふれあい””会話”が組み合わさることで「気分が明るくなった。」や「高校生と交流できて楽しかった。」などの声が聴かれ、心理的安定や社会参加意欲の向上につながった。 ・また高校生にとっても、高齢者との関わりを通してコミュニケーション能力や身体面だけではなく「気持ち」への理解が深まった。
	11月13日				16人	
	11月20日				14人	
5	12月13日	「南海トラフ地震に立ちむかうために」	疾病対策課 重層的支援推進担当	尼崎市難病団体連絡協議会	48人	・参加者は身近な経験や多様な立場から意見を出し合い、災害時要援護者への理解を深めたり、連携やつながりの大切さを再認識する機会となった。 ・自由に意見を出せる雰囲気の中で活発な話し合いが行われ、他者の意見を聞くことで学びが広がり、支え合い・助け合いの重要性を自分事として考える意識啓発につながった。 ・今後の防災活動に生かせる多くのアイデアや気づきが得られ、防災意識を育む機会となった。
6	12月13日	「もしもの時のお守りお菓子防災ポシェット」	重層的支援推進担当	・【共催】武庫川女子大学福祉ボランティアサークルMUKOnnet ・【協力】大庄元気むら	32人	・学生キャンディアンバサダーに認定されている学生と高齢者が一緒にお菓子ポシェットづくりを行うことで、交流を深めながら防災を身近で楽しいものとして学ぶ機会となった。 ・参加者は非常時の備えや工夫について自然に理解を深め、防災への関心や意識を高めるきっかけとなった。 ・世代間交流を通じて、地域で支え合う防災の大切さを共有する場となった。
	1月10日				18人	
7	12月20日	「自分でつくる安心＆防災帳」	重層的支援推進担当	・【共催】兵庫県立尼崎小田高等学校 看護医療・健康類型 あまおだ「かngo」 ・【協力】長洲団地福祉協会	9人	・将来看護職や医療職等を目指す高校生が防災帳を活用して高齢者への啓発を行ったことで、要配慮者自身が自分の健康状態や生活環境を振り返り、必要な備えや備蓄について整理する機会となった。 ・高校生にとっても要配慮者支援への理解が深まり、世代を超えた交流を通じて、地域で支え合う防災の大切さを共有する場となった。